

弔 辞

ディキ^{*}、今日は私たち飼育係が呼びなれた名前と呼びます。あなたは覚えていないとは思いますが、初めて会ったのは4年前でした。私は当時サバンナ班に所属しており、実習でアフリカゾウ舎に行ったのが最初の出会いでした。大きな体に思慮深くこちらを見つめる瞳。新人飼育係だった私にとって、キリンよりも大きなあなたに恐怖心を持つ程に圧倒されたことを覚えています。実を言うとその時私は内心、アフリカゾウ担当じゃなくて本当によかったと思っていました。そう思うぐらい、あなた達は迫力があり、畏敬の念を抱く存在でした。しかし、そんな怖気付いている私を気遣うようにあなたは「グルルル」と挨拶をしてくれたことを今でも覚えています。

あれから3年後、異動でアフリカゾウ班に配属されて緊張している私に、あなたは当時と同じ優しい声で挨拶をしてくれましたね。あなたは大きくて強くて優しく、怖いものなどないように私には見えていましたが、そうでは無かったのだと担当になって知りました。あなたはとても繊細で、優しく、人が好きで、臆病で、常に不安を抱えていました。私はあなたの不安をどうにかしたいと思いつつも、ついには叶わなかったことが今でも悔やまれます。

あなたは国内最高齢の個体で、推定年齢は57歳でした。1967年7月21日にローラ^{*}と一緒にケニアから来ました。ローラとは姉妹のように育ち、あなたはローラに対してだけは強気で姉のような存在だったと聞いています。当時は直接人とゾウが接する飼育方法であったため、現地のアフリカゾウ保護施設で育てられていたあなたは、そうではないローラが人に馴れるための助けになってあげたようですね。

また、アフリカゾウ飼育の前例や情報が少ない時代だったため、餌や体調管理方法、訓練などであなたの存在はこれらの技術の向上に大きく貢献しました。時には園内や近くの川辺を飼育係と散歩をして文字通り道草を食いながら、好みの食べ物を教えてくれたと聞いています。その中でもクズはあなたの好物で、

園内を探し回って集めたことが懐かしいです。今年はクズが繁茂しているのを見る度に、あなたがいなくなった事を実感します。

あなたは多摩で飼育されてきたアフリカゾウ全ての個体と暮らしてきました。その中でも6頭の仲間と暮らしていた時が、1番安心して落ち着いて暮らしていたように見えた先輩飼育係の方から聞いています。そこから、ヨッペイ[※]の死をきっかけに3年8か月放飼場に出ることができなくなり、舎内と通路を歩き来する生活が続いたこともありました。ローラやチーキとの別れもありました。繊細で臆病なあなたにとって毎日がさぞかし不安であっただろうことは想像に難しくありません。私にはその不安を払拭できるだけの技術も知識も信頼もなく、最後まで無力でした。

去年の年末から今年の年始にかけて体調を崩し、室内で安静に過ごすことも多くなりましたね。少し暖かくなるにつれ、体調も良くなってきているように見えた矢先にあなたは転倒して立てなくなり、そのまま旅立ってしまいました。2022年3月12日の朝です。

前日は調子が良さそうに見え、また、体調を崩してからは珍しく、優しく挨拶をしながら餌を受け取ってくれたので、しばらくあなたがいなくなったことへの整理がつきませんでした。

あなたからはたくさんの事を学ばせてもらいました。中でも飼育動物の精神的な健康や心についてあなたの担当になってからはより勉強して思いを巡らせるようになりました。あなたはどう思っていたかは分かりませんが、私はあなたと会えて本当によかった。

大きな体なのに繊細で臆病で優しいディキ。あなたの不安が今は無いといいなと思います。ご冥福をお祈りします。

令和4年9月21日 多摩動物公園 飼育展示課 森 翔生

※多摩動物公園に到着したばかりの頃、アコはディキと呼ばれていたため、飼育担当者は普段この名前でも呼んでいました。弔辞の中では、他の個体も飼育担当が普段呼んでいた名前（ヨッペイ＝タマオ、ローラ＝マコ）になっています。